

八幡紕芦史 編著 竹本文美, 田中雅美, 福内史子 著

脱・しくじりプレゼン

言いたいことを言うと言わらない！

飯原弘二（九州大学大学院脳神経外科）

医師の日常は、臨床カンファレンスから学会発表、研究成果発表会など、プレゼンの機会に事欠きません。若手の医師にとっては、初の全国学会での口演発表、中堅医師では、シンポジウムの発表、共催セミナーでの口演が当たると、大変うれしいものです。また公的研究費の獲得や公的なポストへの昇進など、プロフェッショナルとしてのキャリアをアップする上でも、プレゼンの重要性に異を唱える人はいないと思います。しかし、いかに仕事の内容が素晴らしくても、聴衆に効果的に伝える努力を私たちは十分しているのでしょうか？ 今から思いますと、私も若いころ、かなり独り善がりなプレゼンをしていたように思います。

このたび医学書院から、医療者向けに『脱・しくじりプレゼン』が刊行されました。編著者は、名著『パーフェクトプレゼンテーション』（生産性出版、1995年）で有名な八幡紕芦史氏です。私自身、プレゼンの基本を八幡氏から学んだ一人です。本書は、多忙な臨床医や研究者向けに、プレゼンの極意を、マンガと丁寧なレクチャーでビジュアル中心に解説しています。効果的なプレゼンには、事前の情報収

集と分析がまず必要なこと、聞き手に当事者意識を持たせることを示して、さまざまな場面での失敗の要因を分析しています。デリバリーとは、まさに伝えるテクニックです。内容を聴衆に理解してもらい、さらに信頼してもらえるかは、このデリバリーの技術にかかっています。また、研究費の獲得や公的なポストへの昇進でのプレゼンでは、プレゼン後の質疑応答が、より大切になってきます。この質疑応答の成否は、深い意味では、プレゼンした内容が、いかにあなたの実体験に基づいているかにかかっています。本当に身についた知識や内容であれば、聴衆は本当に理解して、共感してくれると思います。プレゼンの目的や聴衆はさまざまだと思います。

本書は、さまざまな局面で、「しくじらない」ためのノウハウを満載しています。Practice makes perfect! 皆さん、本書をひもときながら、ぜひ多くのプレゼンをしてください。その後、本書を読み返すと、さらに大きな発見があると思います。

（A5 頁192 2018年10月 定価：本体2,600円＋税
[ISBN978-4-260-03191-2] 医学書院刊）